

道北地域の景気の基調判断を上方修正しました

皆さん、いつもこのサイトをご覧いただき、ありがとうございます。

さて、10月1日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きもみられる」として、上方修正しました。前月までは、「低迷している」としていまして、厳しい状況の中でも、悪化のペースは緩やかになっている、と解説してきましたが、その後、主として8月の経済データをつぶさに検証した結果、厳しい状況の中でも漸く「持ち直しの動き」がいくつか窺われてきました。

1. 公共投資が漸く持ち直してきました。7月までは、前年同月ならびに前年同期との対比で、出が鈍かったのですが、補正予算による押し上げ効果もあり、8月に入り一気に6割弱の増加となりました。今後の帰趨については慎重に見極める必要がありますが、まずは朗報といえます。
2. 個人消費も、自動車減税や買替え補助金の効果もあり、自動車販売が増加に転じています。
3. 設備投資は、同じく10月1日に公表しました「[短観（道北地域）](#)」の結果、21年度下期計画が前年同期比で2割弱の増加となることが明らかになりました。加えて、旭川市の非居住用建築確認申請床面積が3割弱増加しました。
4. 雇用情勢が厳しい状況であることは変わりありませんが、このところ若干変化の兆しが窺われます。有効求人倍率が、ここ数カ月緩やかな持ち直しに転じてきています。
5. 先に述べた、9月短観の結果から窺われる道北企業の景況感は6月に漸くボトムを打って、持ち直してきました。

このように、当月のキーワードは「持ち直し」と言えます。ただ、これは、各種政策効果によってもたらされている部分が多く、今後の持続性については、注意深く見守っていく必要があります。

いくつか、お知らせがあります。[こちら](#)もご覧ください。

平成 21 年 10 月 1 日
尾家 啓之